

特定非営利活動法人 サトニクラス 就労継続支援 A 型事業所「サトニクラス酢房」(月形町)

○基礎情報【経営形態：漬物及び乾燥野菜の製造・販売】

【従業員数：4 名、障害者 15 名】



<問い合わせ先>事務局長：佐々木氏 ☎ 0126-35-1235

1 農福連携に取り組んだ経緯

月形町は、労働者の約 31%が農業に従事し、医療・福祉従事者と合わせて 4 割を超える「農業と福祉の町」と言われることがある。4 代目農家である楠順一氏は、町内の知的障害者支援施設「雪の聖母園」の理事を務めており、新築により不要となった同園の旧寮舎の活用方法を検討した。その結果、旧寮舎を地元産野菜の漬物加工施設とし、障害者やニートの若者の仕事づくりの場として再生することを決めた。そこで、平成 24 年、NPO 法人を設立して札幌市からニートの若者を受け入れ、平成 25 年には厚生労働省の緊急雇用創出事業に採択されて正規雇用を実現するとともに、平成 26 年に A 型事業所を設立して障害者就労を開始した。

***平成 24 年に受け入れた若者の 1 人は、現在、サトニクラスの工場長として活躍している。**

2 取組内容

(1) 就労形態：就労継続支援 A 型事業所。町内外に住む利用者を自宅等から送迎する。軽度の知的障害を持つ利用者が多く、23 歳から 60 歳過ぎまでと年齢層は幅広い。

(2) 就労期間：通年

(3) 就労時間：毎週月曜日から金曜日、9 時 00 分から 15 時 30 分

(4) 障害者の作業内容：

- ① **漬物用野菜の生産**・・・農地 1ha 弱でナス・キュウリ・ダイコン・メロンの肥料まき、苗植え、メロンの摘果・野菜収穫、雪下ダイコンの掘出し等の農作業を行う。カマ等の刃物も使用する。
- ② **漬物の製造**・・・各種合計で月 1,500 パック、ダイコン漬は年間約 100 樽相当を製造。洗浄、漬け込み等の全工程を行う。発酵に用いる麹は、楠氏の個人農園(約 15ha)で生産された水稲から自家製造する。
- ③ **野菜出荷用の段ボール箱折り**・・・JA 月形町から年間 5 万 5 千枚を受託している。悪天候時の室内作業として実施する。作業に慣れた障害者の製作ペースは速く、一分間に二箱以上のペースで製作している。



3 取組の特徴

- (1) 障害程度や相性などを考慮して、障害者数名で 1 チームを編成したうえで、最も障害程度の軽い障害者が他のメンバーに教えるなど、障害者同士の理解水準とコミュニケーションで仕事が進むよう工夫している。
- (2) 例えば肥料散布については、目印として畑に棒を立て、畑の端から棒までの間をプラスチック容器が空になるまで往復するよう指示するなど、調節の必要がある作業についても、正しく行える工夫をしている。
- (3) 野菜栽培と漬物製造という室内外の作業を組み合わせることで、天候に左右されず、通年雇用が可能。
- (4) 平成 27 年 2 月、楠氏を中心として「**つきがた農福交流推進協議会**」を設立し、生活困窮者自立支援法に基づく相談支援機関「そらち生活サポートセンター」(月形町)と連携し、町内の農家 7 戸で生活困窮者の農作業体験を受け入れている。全体会議は年間 2 回程度にとどめ、農家との相談等は普段の仕事の中で行うなど、組織を肥大させずに現場レベルでの信頼関係を優先することで、機動的な運営を行っている。
- (5) 平成 27 年度農林水産省「都市農村共生・対流総合対策交付金」を活用し、乾燥野菜の商品開発や農家における労働力の需要調査等を実施するなど、工賃向上のためにソフト面での研究を行っている。

4 障害者就労への考え方

- (1) 農業が盛んな月形町では、農作業などの「働くこと」は誰にとっても当たり前の生活の一部である。また、月形町では農業労働力が不足しており、障害者は農作業の貴重な戦力にもなりうる。
- (2) 求められる農作業の前では、障害程度に関わらずそれぞれが能力を発揮し、役割を果たすことを目指す。

5 今後の課題や将来展望

- (1) 町内の農家の間で障害者就労が今以上に広がって欲しい。そのために、今年度から、作業の様子を撮影した動画をインターネット等で公開することにより、障害者受入れに慣れない農家の不安を取り除きたい。
- (2) 漬物と異なり常温販売が可能で賞味期限が長く、販売先で売りやすい乾燥野菜の製造を拡大したい。
- (3) 作成した段ボール箱を保管できる場所を低料金で確保したい。